

平成 27 年度第 2 回千歳市卸売市場運営委員会 議事概要

日 時：平成 28 年 2 月 22 日（月）13:30～15:00

場 所：千歳市役所議会棟 2 階大会議室

出席者：＜委 員＞島委員、石川委員、亀谷委員、渡瀬委員、市川委員、海野委員、
中田委員、元木委員、松坂委員、増子委員、奥山委員、四方委員、
喜多委員
＜事務局＞井手産業振興部長、内山産業振興部次長、佐藤公設卸売市場長、
林管理係長

1 議事

(1) 売上高向上策取組状況（平成 27 年度分）について

事務局から、資料 1「売上高向上策取組状況（平成 27 年度分）」に基づき説明を行った。

＜質疑及び意見＞

（委 員）

市場関係者は様々な取組を行っており、その努力を評価する。今後も継続して実施してもらいたい。買受人へのアンケート結果を見ると札幌、苫小牧市場からの購入が目立っている。千歳市場の場合、近隣に巨大市場があり環境は厳しいが、地域の食材を首都圏に販売するなど空港を活用した施策を検討する必要がある。

（委 員）

販路拡大については、加工食品向けの原料提供の検討が挙げられる。そのためには、現存するパッケージセンターの拡大や要冷施設の充実など施設面の整備が必要となってくる。カット野菜のニーズは非常に高いが、野菜が採れない冬季の対応が困難であり、通年事業化が課題である。また、空港を活用した道外出荷についても、検討の必要がある。

(2) 平成 28 年度の会議スケジュール及び審議事項について

事務局から、資料 2「平成 28 年度の会議スケジュール及び審議事項」に基づき説明を行った。

＜質疑及び意見＞

（委 長）

会議の開催時期予定について、教えていただきたい。

（事務局）

第 1 回目の会議は 5 月頃の開催を予定している。それ以後の会議については、概ねの時期を第 1 回目の会議でお示しする。

(委員)

他市場視察とあるが、具体的に予定している市場はあるのか。

(事務局)

帯広市場を予定している。民営の卸売市場で、一般の方や観光客を取り込むなど様々な事業を展開している市場であり、千歳市場の今後のあり方を検討するにあたり非常に参考になるものと考えている。

(委員)

帯広市場は民営とのことであるが、公設と民営では市場の運営にどのような違いがあるのか。

(事務局)

卸売市場法などに基づいて運営を行う点では同じであるが、条例等に縛られない分、事業等を実施するうえでは民営のほうがより柔軟に動ける部分がある。

(3) その他

①アドバイザーの会議出席について

平成 28 年度の会議から、アドバイザーとして卸売市場の動向に関し専門的な見識を有する者の出席を認めることについて、事務局から、資料 3「アドバイザーの会議出席について(案)」に基づき説明を行い、意見を求めた後、全会一致をもって了承された。

②その他意見

(委員)

千歳市場は、販路と価格の部分で弱い面があり、生産者が取引をする魅力に欠ける。栽培したものを千歳市場に持ち込むことがコスト的には最良であるが、安価で取引されてしまうため、生産者は量販店等との取引を優先する。適正な価格で安定的に商品を販売するという努力が市場に求められる。

(委員)

量販店等で食品を購入しても千歳市場から入荷したものかどうか不明である。千歳市場から入荷したことがわかるような工夫が必要である。

(委員)

小売店は、千歳市場が閉鎖すると札幌や苫小牧の市場などから商品を仕入れることとなり、負担が増えることから閉店するところもあると考えられる。小売店のお客様は、近所の高齢者が多く、小売店が閉店することにより食料品等の購入が困難になってしまう方が増えるという課題がある。

③事務局から、次回の会議は 5 月頃の開催を予定している旨報告があった。

委員長が次回会議については、議事の内容等を判断し公開か非公開を決定することを提案、意見を求めた後、全会一致をもって了承された。

以上